

現行の地域医療構想に係る取組について

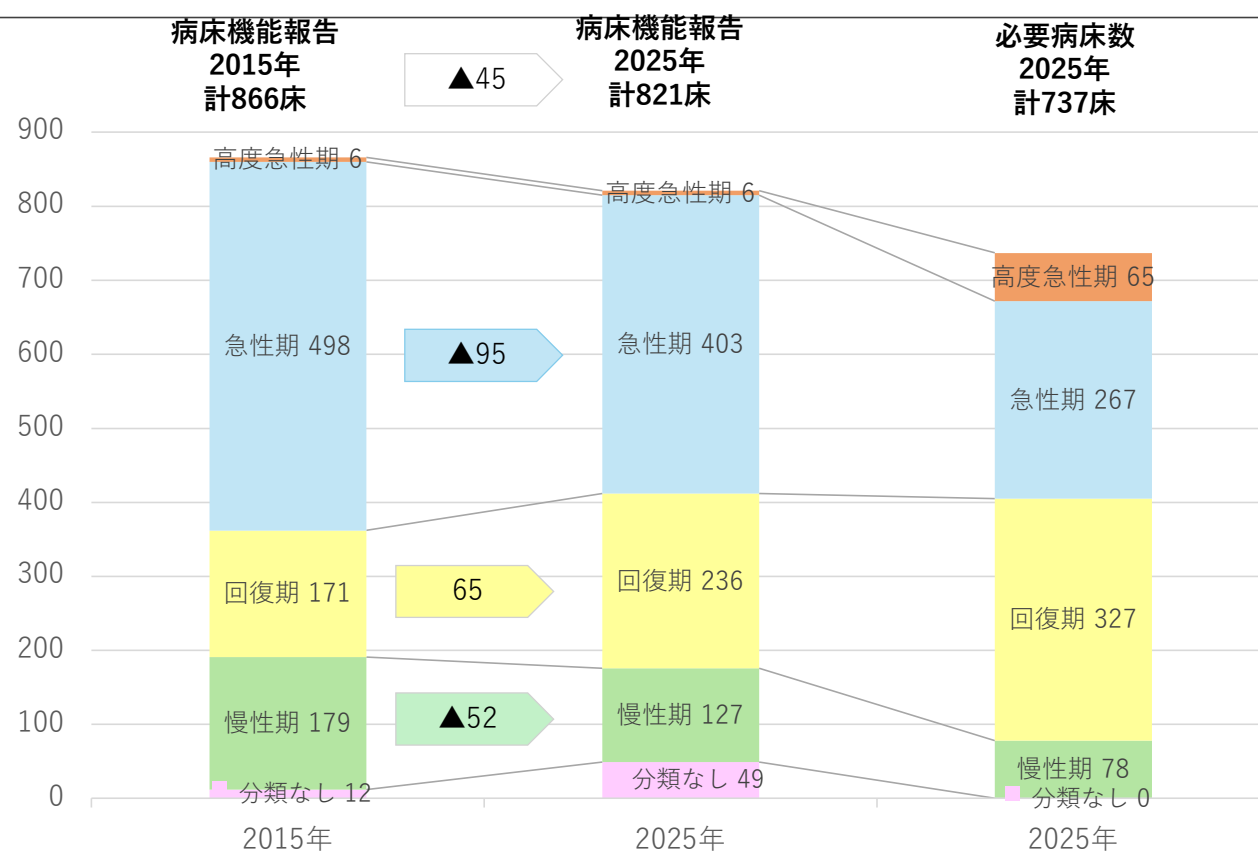
橋本保健所

現行の地域医療構想について①

総括

過剰となっている病床の削減や不足している病床機能への転換等、策定時から一定の進捗

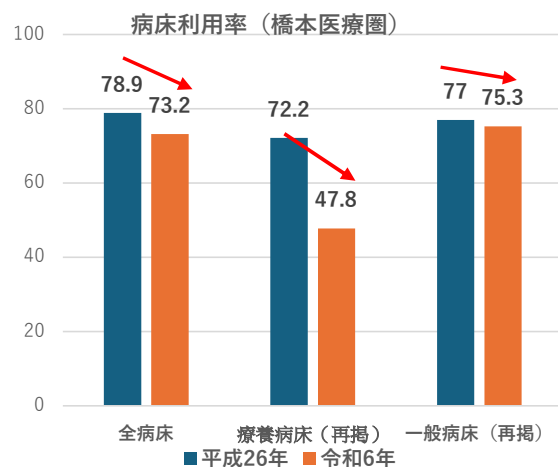
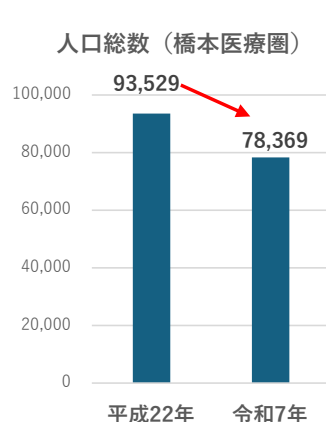
- 総病床数 866 床 → 821 床 ※約10年間で 45 床の病床を削減
- 過剰となっている急性期病床を減らし、不足している回復期病床を増やすなど病床機能を転換



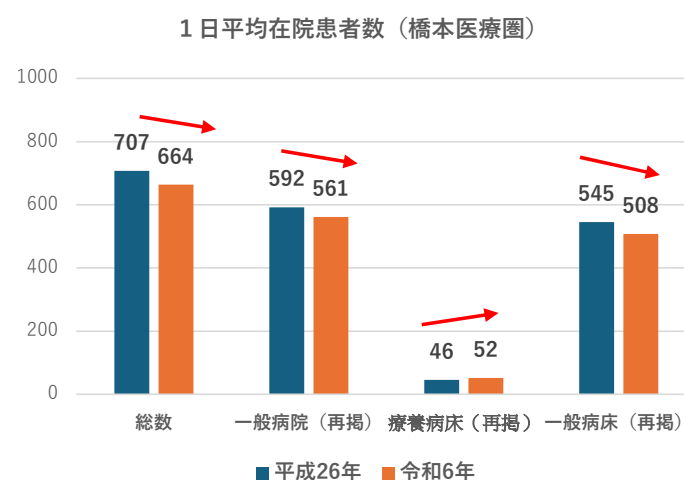
現行の地域医療構想について②

現状の課題

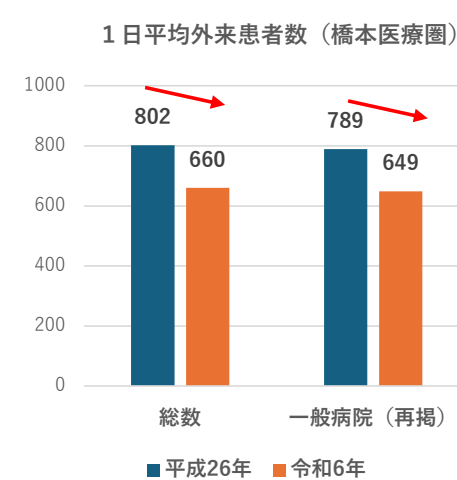
- ・病床数（821床）と必要病床数（737床）と比較して、病床数は過剰（84床）
- ・高度急性期機能（6床）と必要病床数における高度急性期機能（65床）と比較して、不足（59床）
- ・急性期機能（403床）と必要病床数における急性期機能（267床）と比較して、過剰（136床）
- ・回復期機能（236床）と必要病床数における回復期機能（327床）と比較して、不足（91床）
- ・慢性期機能（127床）と必要病床数における慢性期機能（78床）と比較して、過剰（49床）となっているものの、基本診療体制（療養病棟入院基本料）の区分では、他圏域への流出がみられることを鑑み、不足している現状
- ・人口減少に伴い、平成26年当時と比較し、病床利用率、1日平均在院患者数、1日平均外来患者数の総数については、減少の傾向があることから、状況に応じた医療提供体制への転換等が必要



平成26年及び令和6年病床機能報告



平成26年及び令和6年病床機能報告



平成26年及び令和6年病床機能報告

・総務省「平成22年国勢調査」
 ※和歌山県地域医療構想平成28年5月
 ・和歌山県人口調査※2025年4月1日現在

現行の地域医療構想に係る取組について

●医療需要の動向等を踏まえて、引き続き

- ・非稼働病床の意向を確認し、病床の廃止や転換等の意向を確認
- ・不足する病床機能への転換について、基金などの補助金を活用し、効率的で適切な医療を提供できる体制の実現をめざす

《新構想の取組》

医療法の改正により、新たな地域医療構想の取組は令和9年（2027年）4月1日から施行

《経過措置》

医療法の一部を改正する法律の附則において、令和10年（2028年）度までは新構想の取組を猶予

令和9年4月1日時点で新構想が未策定でも、令和11年3月31日までは、現行の医療計画や地域医療構想が、医療法改定後の医療計画や地域医療構想とみなされる

非稼働病床について（今年度の取組）

対象の医療機関にヒアリングを実施し、病床の廃止や他施設への転換について引続き依頼

《ヒアリング対象》

非稼働病床が10床以上の医療機関

《ヒアリング内容》

非稼働の理由、非稼働病床の今後の予定等

※非稼働病床を廃止する場合など、具体的な方針が決まっている場合は、調整会議で合意を得る

※病床の削減や機能転換する際には、補助金等の活用を検討

非稼働病床の状況

No.	医療機関名	R7			R6		R5		R4		R3		R3～R7
		病床数 (R7.7時点)	非稼働 (R6実績)	非稼働割合	病床数 (R6.7時点)	非稼働 (R5実績)	病床数 (R5.7時点)	非稼働 (R4実績)	病床数 (R4.7時点)	非稼働 (R3実績)	病床数 (R3.7時点)	非稼働 (R2実績)	非稼働 病床平均
1	紀和病院	299	2	1%	299	10	299	7	299	8			5.4
2	橋本市民病院	300	49	16%			300	7					11.2
3	山本病院	84	9	11%	84	6	84	1	84	2			3.6
4	県立医科大学附属病院紀北分院	80	22	28%	100	47	100	2	100	2	100	7	16
5	医療法人岡田整形外科												0
6	奥村マタニティクリニック	18	5	28%	18	8	18	5					3.6
7	医療法人博周会 梅本診療所	19	1	5%									0.2
8	高野山総合診療所	2	1	50%	2	2	2	2	2	2	2	2	1.8
合計		802	89	11%	503	73	803	24	485	14	102	9	41.8

ヒアリング結果

No.	構想区域	医療機関名	病床数	非稼働病床数	非稼働の理由	非稼働病床の今後の予定 (いつ、何をするなど具体的に)	見直し予定時期 見直し後の病床数	備考
1	橋本	橋本市民病院	・高度急性期 6床 ・急性期 245床 ・回復期 49床 ・慢性期 床	・高度急性期 床 ・急性期 50床 ・回復期 床 ・慢性期 床 ※直近の状況	看護師不足により、看護配置ができないため	非稼働病床については、取得可能な入院料や一般病棟からの転換を検討しておりますが、具体的な方向性は決まっておらず、病院の役割と収益性の両方の観点から検討中となっております。	・見直し予定時期 令和8年度中 ・高度急性期 6床 ・急性期 195床 ・回復期 49床 ・慢性期 床 ・休床 50床	病棟規模を縮小し、一部の別入院料（緩和ケア病棟）や療養病棟、介護医療院へ転換などの案もありますが、未確定です。
2	橋本	和歌山県立医科大学附属病院紀北分院	・高度急性期 床 ・急性期 80床 ・回復期 床 ・慢性期 床 ・休床 床	・高度急性期 床 ・急性期 22床 ・回復期 床 ・慢性期 床 ・休床 床	患者数の減少。	現状80床のうち24床を休床としている。 患者数の増加に努めており、患者数が回復した際には80床に戻す可能性あり。	・見直し予定時期 未定 ・高度急性期 床 ・急性期 床 ・回復期 床 ・慢性期 床 ・休床 床	